

令和 3 年 6 月 4 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12474

研究課題名（和文）児童・思春期精神科病棟における地域包括ケアの視点を取り入れた教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Educational program development of community comprehensive care for nurses working at child and adolescent psychiatric wards

研究代表者

船越 明子（Funakoshi, Akiko）

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：20516041

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：児童・思春期精神科領域に勤務する看護師への自記式質問紙調査から、2因子23項目の実践能力自己評価尺度「子どものこころのケア実践尺度」を開発した。また、精神健康上の課題をもつ青少年へのアウトリーチ支援を実践している熟練支援者21名へのインタビュー調査をGrounded Theory Approachを用いて分析し、ひきこもりの訪問支援のプロセス‘Supporting them in finding their own way to participate in society’を明らかにした。これらの研究成果をもとに支援方法をまとめた臨床家向け小冊子を作成し、WEBサイトに整理した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの心のケアに携わる看護師を含む専門職が、実践能力を自己評価し、アウトリーチやピアサポート等の地域包括ケアの視点を自ら学べるように整備することは、精神健康上の課題をもつ児童・思春期の子どもとその家族への支援の質向上につながる。

研究成果の概要（英文）：An assessment scale of clinical competency in child and adolescent mental health nursing with two structures was established and corresponded to direct care for children and their family members and an approach to the care environment. The results of confirmatory factor analysis suggest that the newly developed scale is reliable and valid. “Supporting them in finding their own way to participate in society” was identified as the core category of the process involved in effective home visiting support provided by experienced workers to help people with hikikomori. This core category was substantiated by following three interrelated stages: preparing the involved surroundings for reaching out to a person, maintaining constant communication, and expanding the range of activities and relationships. We have created a booklet that summarizes the support methods based on these results for clinicians in child and adolescent psychiatric setting and organized it on the website.

研究分野：精神看護学

キーワード：児童・思春期 ひきこもり アウトリーチ

1. 研究開始当初の背景

子どもの心の問題は、いじめ、不登校、虐待、若年者の自殺、少年犯罪などと関係しており、関心が極めて高い社会的課題である。世界的な疫学調査では、子どもの10～20%が精神的な問題を抱えていると報告されている(Kieling et al, 2011)。わが国でも、精神疾患の治療を受けている20歳以下の子どもは、22万人以上にのぼり、過去10年間で約2倍に増加している(厚生労働省, 2014)。厚生労働省は、都道府県が主体となって地域の拠点病院を整備する「子どもの心の診療ネットワーク事業」を2011年度から実施している。これに伴い、子どもの心の治療を行う児童・思春期精神科病棟は、2010年からの4年間で1.7倍に増加した(船越, 2015a)。

児童・思春期精神科病棟での入院治療において、看護師は子どもの生活全般に関わり、きわめて重要な役割を担っており、高度な専門知識と看護技術、臨床経験が求められる。全国の児童・思春期精神科病棟に勤務する看護師を対象に、看護実践の質を評価する実態調査を2010年と2014年に実施した。その結果、短期間での病床数の急増によって、児童・思春期精神科病棟での実践能力が低いと評価される看護師の割合は、4年間で1.5倍に増え、2014年では23.6%に達している(船越, 2015a)。さらに、児童・思春期精神科病棟において、看護師の実践能力の低さは、医療事故およびヒヤリハットの発生に統計的に有意な影響を与えていることが実証されている(船越, 2015b)。特に、中堅看護師は、子どもと家族の包括的理解と多職種との協働によって困難に対処し、治療を前進させる能力が求められている一方で、関係機関と連携し地域での療育環境を整えながら入院中の看護を提供していくことに強い困難を感じている。

地域包括ケアとは、医療・介護・予防・生活支援を住み慣れた地域で包括的に行うことを意味する介護保険上の概念である。最近では、小児の地域包括ケア(厚生労働省, 平成27年度小児等在宅医療に係る講師人材養成事業, 2016)や、精神障がい者地域包括ケア(高木ら, 2013)も検討されている。児童・思春期精神科領域の地域ケアには、アウトリーチ(訪問支援)とピアサポート(家族会・当事者会など)が重要である。児童・思春期精神科病棟に勤務する中堅看護師が、地域包括ケアの視点をもって、子どもと家族に看護を提供することができれば、看護実践の質向上に大きく寄与すると考えた。病棟に勤務する看護師が地域包括ケアの視点を取り入れた看護を提供できるようになるためには、観察、アセスメント、地域との連携および資源の掘り起こし、家族支援などについての新たなノウハウを系統的に学ぶことができる教育の実施が有用である。

船越明子、土田幸子、土谷朋子、他：児童・思春期精神科病棟に勤務する看護師の看護実践の卓越性と看護経験。日本看護科学学会誌, 34, 11-18, 2014.

船越明子、宮本有紀：児童・思春期精神科病棟における看護師の実践能力に関する実態調査, 平成26年度 岡三加藤文化振興財団研究助成報告書, 2015a

船越明子、宮本有紀：児童・思春期精神科病棟に勤務する看護師の実践能力と医療事故の関連。第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015b.

Kieling C, Baker-Henningham H, Belfer M, et al (2011): Child and adolescent mental health worldwide: evidence for action. *Lancet*, 378(9801), 1515-1525.

厚生労働省: 平成26年度 患者調査, 2014. (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/14/>)

高木俊介監修: 精神障がい者地域包括ケアのすすめ ACT Kの挑戦 実践編, 批評社, 2013.

2. 研究の目的

本研究の目的は、児童・思春期精神科病棟に勤務する中堅看護師の実践能力向上に効果的な、地域包括ケアの視点を取り入れた教育プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

児童・思春期精神科における看護実践能力自己評価尺度の開発と児童・思春期精神科での看護実践に必要とされる地域包括ケアの視点の抽出を行い、臨床家の実践能力向上のために活用できるコンテンツとして整理した。

(1) 児童・思春期精神科における看護実践能力自己評価尺度の開発

児童・思春期精神科看護におけるコンピテンシーモデルに示された中堅看護師に求められる103項目の行動特性をもとに、文献検討の結果を参考にしながら、研究班で取捨選択と表現の修正を行い、45項目のアイテムプールを抽出した。抽出したアイテムプールについて当該領域の看護経験を有する看護師5名を対象にcognitive interviewingによる回答困難度と内容妥当性の検討を行い、41項目の尺度原案を作成した。

児童・思春期精神科看護に特化した看護実践能力自己評価尺度の原案として作成した「子どものこころのケア実践尺度(案)」の信頼性と妥当性を検証するために、児童・思春期精神科領域に勤務する看護師を対象とした自記式質問紙調査を実施した。29病院から調査協力が得られ、505名(有効回答率79.9%)を分析対象とした。

- (2) 児童・思春期精神科病棟での看護実践に必要とされる地域包括ケアの視点の抽出
精神健康上の課題をもつ青少年に対してアウトリーチ型のケアを実践している熟練支援者21名へのインタビュー調査で得られたデータをもとに児童・思春期精神科領域の地域ケアで最も課題となっているひきこもりに焦点を当てて Grounded Theory Approach を用いて分析し、ひきこもり状態にある本人および家族を対象に熟練支援者が行う訪問支援のプロセスの理論化を行った。また、実際に支援を受けた3名の若者を対象としたインタビュー調査を行い、M-GTAを用いて分析し、ケアを受ける側の視点を明らかにした。

さらに、アメリカの精神保健福祉分野で開発された IPS(Intentional Peer Support; 意図的なピアサポート)をもとに、3日間の集中研修と児童・思春期精神科領域の地域ケアの特性をふまえた1回/月の定期的な勉強会を実施した。

4. 研究成果

- (1) 児童・思春期精神科病棟における看護実践能力自己評価尺度の開発

「子どものこころのケア実践尺度(案)」の項目分析の結果、天井効果、床効果は認められず、I-T 相関係数は 0.752~0.876 の範囲であった。探索的因子分析の結果から、「子どもへの直接ケア」、「家族へのケア」、「ケア対象への理解」、「連携」の4因子36項目の尺度が得られた。検 Cronbach's 係数は 0.986 であった。「看護実践の卓越性自己評価尺度 病棟看護師用」総得点および児童・思春期精神科病棟での勤務年数と統計的に有意な正の相関を示した ($r = 0.654, p < 0.001$; $r = 0.266, p < 0.001$)。4因子36項目の尺度は、検証的因子分析によるモデル適合度において一部の指標に課題があるものの、信頼性と妥当性が認められ、当該領域の看護実践を網羅的に含んでおり、臨床家が自らの実践能力を評価する際に有用であると考えられた。

4因子36項目「子どものこころのケア実践尺度(案)」を再分析し、モデル適合度の高い2因子23項目の尺度 (AGFI=0.813, CFI=0.933, RMSEA=0.083, AIC=1122.989)を開発した。調査研究での統計解析をより厳密に行う必要がある時に有用な尺度であると考えられた。

- (2) 児童・思春期精神科病棟での看護実践に必要とされる地域包括ケアの視点の抽出

熟練支援者へのインタビュー調査の分析の結果、ひきこもり状態にある本人および家族を対象に熟練支援者が行う訪問支援のプロセスは、'Supporting them in finding their own way to participate in society' をコアカテゴリーとし、"preparing the involved surroundings for reaching out to a person", "maintaining constant communication", "expanding the range of activities and relationships"の3カテゴリーで構成された。また、実際に支援を受けた若者を対象としたインタビュー調査の分析結果から、ひきこもる人が訪問支援を受けてから自分らしい働き方を見出すまでの心理的变化を明らかにした。これらの結果をもとに、臨床家が活用しやすい7段階のプロセスに整理した。

IPSの3日間の集中研修では、23名が参加し、IPSの4つのタスク(つながり、世界観、相互性、向かうこと)、マインドフルネス等について学んだ。1回/月の勉強会では、「自分の不安と向き合っ、居心地の悪さと一緒に居る練習」「自分が自分の主体であることとその障壁」などを毎回ピアサポートにおいて重要なテーマについて10名前後で話し合った。全24回実施し、のべ247名の精神健康上の課題を有する若者とその家族が参加した。参加者へのアンケート調査の内容から、対等な立場で相互性を重視した学びの場を継続的に提供すること、コンパッションに焦点をあてたマインドフルネスの実践が重要であることが明らかとなった。

- (3) 臨床家の実践能力向上のために活用できるコンテンツの整理

教育プログラム実施のための予備的取り組みとして、中堅看護師を対象とした児童・思春期精神科看護に関する事例検討会を実施した。その後、教育プログラムの効果検証を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により介入研究の協力が得られる状況ではなかったため、(1)(2)の研究成果の一部について、看護師を中心とする臨床家向けに支援方法をまとめた小冊子を作成し、WEBサイト上に整理して公開した。今後、準備が整い次第公開するコンテンツを増やす予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Funakoshi Akiko, Miyamoto Yuki	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 Relationships between medical incidents, clinical competency, and clinical experience in child and adolescent psychiatric in patient nursing: A structural equation modeling approach	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Child and Adolescent Psychiatric Nursing	6. 最初と最後の頁 E-publish
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jcap.12333	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Funakoshi Akiko, Saito Masako, Yong Roseline, Suzuki Midori	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 Home visiting support for people with hikikomori (social withdrawal) provided by experienced and effective workers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Social Psychiatry	6. 最初と最後の頁 E-publish
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/00207640211009266	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 船越明子、宮本有紀、土谷朋子
2. 発表標題 児童・思春期精神科看護における看護実践能力自己評価尺度の開発
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第29回学術集会・総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Funakoshi, Yuki Miyamoto, Tomoko Tsuchiya
2. 発表標題 Development of an assessment scale of clinical competency in child and adolescent mental health nursing
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of the World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 船越明子、浦野茂、土田幸子
2. 発表標題 児童・思春期精神科病棟での親子支援場面における父親の果たした役割
3. 学会等名 第44回日本保健医療社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 船越明子、土谷朋子、宮本有紀、大橋冴理
2. 発表標題 児童・思春期精神科看護における子どものこころのケア実践と医療ミス
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第30回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akiko Funakoshi, Masako Saito, Yong Kim Fong Roseline, Midori Suzuki
2. 発表標題 Process of outreach services for people with hikikomori (social withdrawal) by expert workers.
3. 学会等名 The 24th World Congress of The International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 斎藤まさ子、船越明子、Yong Kim Fong Roseline
2. 発表標題 ひきこもる人が訪問支援を受けてから自分らしい働き方を見出すまでの心理的变化.
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

子どもと若者のこころのケアと看護
<https://capsychnurs.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮本 有紀 (Miyamoto Yuki) (10292616)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	土谷 朋子 (Tsuchiya Tomoko) (40555075)	文京学院大学・保健医療技術学部・准教授 (32413)	
研究分担者	斎藤 まさ子 (Saito Masako) (50440459)	長岡崇徳大学・看護学部・教授 (33109)	
研究分担者	浦野 茂 (Urano Shigeru) (80347830)	三重県立看護大学・看護学部・教授 (24102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------